

| | | | |
|----|------------------------------------|----------------|-------------|
| No | 提 案 名 | 提案団体名 | |
| | | 代表者氏名 | 所 属 |
| 4 | 「おしゃれでゆっくりできるひと時を ～きぶなで巡る小さな旅～」 | 作新学院大学 橋立ゼミナール | |
| | | 内海義仁 他17名 | 作新学院大学 経営学部 |
| | | 指導教官 氏 名 | 橋立 達夫 |

1 提案の要旨

宇都宮の中心市街地はつまらない街、魅力のない街なのだろうか？私たちはこんな疑問からこのプロジェクトをスタートさせた。私たちは大学で「観光まちづくり」を学んでいる。そこで「観光とは国の光を観ること」、そして国の光とは地域の人たちが大切にし、誇りに思っている物事」であることを学んだ。はたして宇都宮の中心市街地で、地域の方々の誇りが見いだせるのだろうか。それを基に観光のプログラムを作ることは可能なのか。

そこでまず、中心市街地を徹底的に歩いてみることから取組みを始めた。車社会で顧みられなくなった裏町や路地を歩く楽しみを見つけることを目指したのである。もちろん外部からの来街者だけではなく、宇都宮市民の観光行動を呼び起こすことにも重点を置いた。それにより、市民が日常的に街なかの生活を楽しんでいて、それを誇りにし、その楽しみを来訪者にも味わってもらおうという「観光まちづくり」の可能性を探ったのである。その結果、街のあちらこちらにキラリと輝くおしゃれなスポットを見つけることができた。またかつての宇都宮中心市街地の風格をたたえた古い写真と現在の風景のマッチングを行うなど、都市の誇りを再構築する方法についても考え提案した。

またそれらと併行して、歩くのはつらいという方々のことを考えて、小さな旅にふさわしい交通手段の利用を検討した。こうしてできたのが、市内循環バス「きぶな」を利用することにより、市中心部を一周して街並みを見物し、随所で下車して市内散策を楽しみ、また隠れた観光資源としてのおしゃれな店でのショッピングや飲食を楽しむ、そんな新しい着地型の観光ルートやプログラムの提案である。現在の「きぶな」は、通勤時間帯以外は、市役所、県庁に用事のある人、買い物や通院のために利用する人など、主としてお年寄りの利用が多く、朝夕の通勤時間帯以外は空席が目立つ。平均乗車率は38%にとどまっている。こうした都市交通の余力を観光に生かすことができれば、その効果は大きく、運行会社はもちろん、商店街などにも波及するであろう。

2 提案の目標

宇都宮市中心市街地の活性化のために、宇都宮の街歩きの楽しさを発見、再発見し、新たな都市型観光の可能性を提示するのがこの提案の狙いである。中心市街地をきめ細かいルート設定で循環する「きぶな」は、こうした観光の足として期待できる。

観光は「地域の光を観る」という行為であり、その光とは、地域住民の誇りというべき物事である。しかし戦災で中心市街地の大半を焼失した宇都宮の市民は、都市として誇るべきものを失ってしまったようにも思われる。そこで外部からの来街者だけではなく、宇都宮市民の観光行動を呼び起こすことにより、市民の誇りとしての街の力を再認識できるような企画を目指した。

3 現状の分析と課題

(1) 中心市街地の衰退と活性化

2000年代に入ってから宇都宮市内中心部からは、西武百貨店、・UTSUNOMIYA109、JR宇都宮駅前にあったロビンソン百貨店などの大型商業施設の撤退が相次いだ。中心市街地で買いもの客が減少し、オリオン通りから客足が減った。2003年にFKDショッピングモール宇都宮インターパーク店、2004年にはベルモール(イトーヨーカドー宇都宮店)と大型ショッピングセンターがオープンし、中心市街地から郊外へシフトチェンジはさらに加速し、宇都宮市中心市街地の空洞化が目立っている。

宇都宮二荒山神社門前に新しくできた「うつのみや表参道スクエア」は、最初から店舗が少なく宇都宮市の出張所(パスポートセンター)・セブンイレブン以外は利用者が少ないのが残念すぎる。



平日のオリオン通り



市内中心部で自転車大会当日のオリオン通り

平日・土日祝日でもオリオン通りにはお客が少ないが、「ふるさと宮まつり」・「JAPAN CUP」などのイベント開催日には地元以外のお客も来訪してオリオン通りがにぎやかになる。そしてこの現象は、都市観光による中心市街地への来街者の誘致により、商店街活性化に繋がる可能性を示している。

今後、中心市街地に訪れるお客が、「宇都宮餃子」という目的だけで集まるのではなく、中心市街地の歴史や文化に触れて街歩きを楽しみ、地元の方とのコミュニケーションを図るような新しい都市観光を考えることで、中心市街地の再活性化を図りたい。

(2) 都市の誇りの喪失と再発見

数年前、雑誌「文芸春秋」の誌上で、都市計画の専門家である東京大学名誉教授の伊藤滋氏が宇都宮駅前の景観を指して「宇都宮は都市の風格にかける街である。」と述べた。乱立するサラ金の看板、冬になると排気ガスが充満する駅前広場、駅前商店街の貧弱な姿などを念頭に置いた記述であった。確かに宇都宮の中心市街地は戦災でほとんど消失し、かつての風格ある街のたたずまいは失われた。しかし風格の無い都市では都市観光は成り立たない。

一方、宇都宮は暮らしやすい街であり通勤族が退職後も住み着く街として知られている。この暮らしやすい街であるという特徴をさらに伸ばし、おしゃれで暮らしを楽しめる街にすることが、都市宇都宮の誇りを取戻す道だと考える。

(3) 都心循環バス「きぶな」の利用促進

平成 11 年度に宇都宮まちづくり推進機構が策定した「都心循環バスの本格導入を目指した運行計画」を受け、平成 13 年度、宇都宮商工会議所が事業主体となり、国・市の補助を受け「都心循環バス実験運行事業」を実施した。平成 14 年度からは、実験運行の運行受託業者であった関東自動車株式会社が自主事業として「都心循環バスきぶな」の商業運行を開始した。実験運行では時計回りと反時計回りの双方向で運転されていたが、運行効率の面から、商業運行では片方向（JR 宇都宮駅から反時計回り）となった。運行時間は JR 宇都宮駅始発 午前 7 時 35 分（土日祝日は午前 8 時 40 分）最終午後 7 時で、運行間隔は 20～30 分となっている。運賃は平成 20 年 10 月 1 日より大人 150 円、小人 80 円となっている。



運行経路は次の通りである。

JR 宇都宮駅 → 宇都宮二荒山神社下 → 県庁庁舎前 → 県総合文化センター前 → オリオン通り入口 → 宇都宮市役所 → 宇都宮城址公園入口 → 日野町通り → JR 宇都宮駅

宇都宮市と「きぶな」の関係としては、実験運行時に運行経費に対し国と市から補助金を 1,000 万円ずつ交付。その後は補助金の交付はされていない。市は中心市街地活性化基本計画の中で、具体的事業としては取り上げていないが、成果項目として下記のような表現がある。

| 成果項目 | 実施主体 | 概要・指標等 |
|-----------|----------|---|
| 都心循環バスの運行 | 関東自動車(株) | 実験運行から民間事業者へ事業継承された。中心市街地を循環する貴重な移動手段として、回遊性の向上に寄与している。愛称は「きぶな」 |

また都市交通戦略の中で、「中心市街地の回遊性を高める」ための施策事業として、下記の通り取り上げられている。

| 施策事業名 | 施策事業の概要 | 時期区分 |
|---------------|--|------|
| 循環バス（ミニバス）の運行 | 中心市街地では、日常生活とあわせ、観光や買い物などで利用しやすい循環バス（ミニバス）を運行する。 | 中長期 |

きぶなの利用者数・運行本数は次表のとおりである。

| 年度 | 平成 14 | 平成 15 | 平成 16 | 平成 17 | 平成 18 | 平成 19 | 平成 20 | 平成 21 | 平成 22 |
|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 利用者数 | 156,984 | 165,367 | 178,544 | 154,237 | 130,670 | 131,489 | 123,707 | 122,700 | 117,672 |
| 運行本数 | 15,585 | 15,355 | 15,470 | 13,457 | 11,487 | 10,930 | 10,378 | 10,601 | 10,720 |

運行本数の減少や料金値上げ（平成 20 年度より大人 100 円から 150 円に）に伴って利用者数は減少してきた。とくに朝夕の通勤時間帯には混雑するが、昼間は高齢者の利用が目立つ程度で空席が目立っている。現在の乗車率は平均 38% 程度となっている。「中心市街地の回遊性を高める」という当初の目的に沿って、きぶなの利用客の拡大を考えることも一つの課題である。

(4) きぶな路線周辺観光資源 (バス内放送で紹介されているもの)

数値は「きぶな」の停留所から観光地までの所要時間 (学生による検証)

きぶな路線周辺観光資源としてバス内放送で紹介されているものの主なものは以下の写真の通りである。



旧篠原家住宅 3分



清厳寺鉄塔婆 6分



初市



二荒山神社 3分



慈光寺赤門 1分



オリオン通り 1分



松が峰教会 約5分



宇都宮城跡公園入口 5分



おしどり塚 3分



およりの鐘 2分

二荒山神社、松が峰教会などは一級の資源であるが、それ以外は今一つ魅力に欠ける。初市は年に1日だけの開催であり、その他の歴史的資源は見ても感動を覚えるものではなく、一度見ればもう一度見に行くというほどのものではない。すなわち、これらをもって都市観光を促すのは困難であり、新しい資源発掘が必要である。

4 施策事業の提案

(1) きぶな停留所周辺の魅力的な資源の発掘

きぶな沿線の新しい魅力的な観光資源を発掘するため、タウンウォッチングを実施した。できるだけ実際にそれぞれの施設や店舗に入ってその魅力を体感することにより、下表右欄のようなポイントを新しい資源としてリストアップした。主にショッピングとグルメのポイントである。こうしたポイントを街歩きに組み込むことによって、より楽しくおしゃれな小さな旅ができる。

| | 停留所名 | バス内案内資源 | 新しい資源 | 分類 |
|----|---------------|---------|--------------------|--------------|
| 1 | J R宇都宮駅 | | ヨドバシカメラ | ショッピング |
| 2 | 宮の橋北 | 旧篠原家住宅 | | |
| 3 | 妙正寺前 | 清厳寺鉄塔婆 | | |
| 4 | 宇都宮記念病院前 | 初市 | | |
| 5 | 国際情報ビジネス専門学校前 | 寺町 | フダンカフェ | グルメ |
| 6 | 宇都宮二荒山神社下 | 二荒山神社 | 餃子みんな・まさし | グルメ |
| 7 | 慈光寺前 | 赤門の桜 | | |
| 8 | 県庁東 | 八幡山公園 | 県立図書館 | 文化 |
| 9 | 県庁庁舎前 | | 県庁展望フロア 栃木県庁昭和館 | 景観 歴史 |
| 10 | 県総合文化センター | | おいでよ！とちぎ館 | ショッピング |
| 11 | 県庁前 | シンボルロード | ライオンズヘッド | グルメ |
| 12 | 東武駅前 | 朝日坂 | カフェレストラン門道 | グルメ |
| 13 | オリオン通り入口 | オリオン通り | オリオンスクエア 宮カフェ | 文化 グルメ |
| 14 | 総合福祉センター前 | | | |
| 15 | 松が峰教会前 | 松が峰教会 | おしゃらく | グルメ |
| 16 | 市役所庁舎前 | | | |
| 17 | 宇都宮市役所 | | ラーメンどる屋 | グルメ |
| 18 | 宇都宮城址公園入口 | 宇都宮城址公園 | 田中屋（そば） | グルメ |
| 19 | 中央郵便局 | | 石田屋（やきそば） | グルメ |
| 20 | みはし通り | 釜川 | 釜川プロムナード | 景観 |
| 21 | 日野町通り | ばんば通り | 屋台横丁 | |
| 22 | 二番町 | おしどり塚 | 陶器ギャラリー 青源本社工場 | ショッピング 文化 |
| 23 | 一番町 | | | |
| 24 | 駅前通り2丁目 | | | |
| 25 | 宮の橋南 | およりの鐘 | | |
| | | | | |

まずはJ R駅前のララスクエアである。なかでもヨドバシカメラ宇都宮店は、最新のAV機器やパソコン、携帯電話などを扱う、若者の人気スポットである。



大通りの一本裏道にあるフダンカフェオーモダンリビングは、街なかのオアシスとして人気の高いグルメスポットである。



宇都宮二荒山神社下には、宇都宮餃子の人気店、みんなとまさしがそろっている。土休日にはお店の前に長い行列ができる。

栃木県立図書館は、蔵書数66万冊の県内一の知恵の森である。現在は耐震工事のため閉鎖中であるが、豊かな時間を過ごすことのできるお薦めスポットである。



栃木県庁本館最上階の展望フロアおよび庁舎改築に伴い一部が移転保存された県庁昭和館は、街歩きの途中で立ち寄るスポットとして好適である。



また栃木県観光協会の「おいでよ！とちぎ館」は、小さな旅のお土産を買うショッピングスポットとして外せない。

アイリッシュパブ「ライオンズヘッド」は、国際色あふれるバーである。オーダーと引き換えに代金を払う本格的なショットバーで、外国人の利用者も多い。



ねずみ穴通りにある「カフェレストラン門道」は、カクテルや創作料理を楽しむことができる隠れ家のようなおしゃれなスポットである。

オリオン通りのオリオンスクエアと宮カフェは、宇都宮の新しいくつろぎスポット、文化スポットとして定着している。宇都宮市内産のお土産が買えるショッピングスポットでもある。



おしゃれはお洒落という意味。大谷石の蔵を改造してできたカフェレストランである。雰囲気、味ともとても良い。



市役所近くのラーメンどる屋。創作ラーメンが得意で、最近は大學生が企画した鮎ラーメンを開発したという。

城址公園のお堀の脇にあるおそばの田中屋はいかにも老舗の味を感じさせるお店である。



いつも通りの宇都宮焼きそば石田屋。おばちゃんのキャラがおもしろい。休日には行列ができる店である。

釜川は日本最初の二重河川。きれいな川の流れる岸は、和風、洋風の景観を楽しめる格好の散歩道。



パルコ裏側の宇都宮屋台横丁はお客とお店の人とのコミュニケーションを大切にする小さな店の集合体である。残念ながら夕方から営業というお店が多く、昼間からの営業店舗は1店舗のみであるが、新しい都市観光スポットとしての価値を持っている。

ガラス工房ながみは、おしゃれなギャラリーを持つ。宇都宮のまち工場の持つ文化の力に触れることのできるスポット。



向かいにあるみそ工場青源。大谷石の塀に囲まれた伝統建築が魅力的。工場見学も受け入れてくれるそうである。

(2) 宇都宮街歩きマップ

宇都宮中心市街地における街歩きの楽しさを紹介するために、市役所、観光協会のホームページに街歩きマップをアップする。できれば毎月更新するようなマップにして、見頃の景色（たとえば慈光寺の桜、大銀杏の黄葉など）を紹介し、さらに今月のおすすめ料理や季節の和菓子などの情報を盛り込めば、来街者を惹きつける力になる。編集を市内の学生など若者に任せれば、そこから新しいアイデアが沸き起こってくることも期待できる。

制作したマップは最終ページに掲載した。

(3) 街歩きインフォメーションセンター

現在は、中心市街地の商店街や商業施設には何も魅力が感じられない。また、宇都宮市に訪れた観光客をお迎えする「観光インフォメーションセンター」が少なく、初めて訪れた人には不親切である。

そこで新しいインフォメーションセンターの創設を提案する。インフォメーションセンターは必ずしも街角に何か所も設置する必要はなく、ITの時代に合わせて来街者が持っている携帯端末にその周囲にある観光スポットやおしゃれな店の情報を流す仕組みであればよい。また市民や観光客の目から見た「おしゃれなお店」情報を集約して来訪者や市民に見せる機能を持つべきである。

(4) 「市内循環線きぶな」沿線情報の積極的紹介

現在の市内循環線「きぶな」の利用者は、買い物・通勤・通院等の方が多く、「きぶな」以外の路線バスのバス停留所と「きぶな」専用のバス停留所のどちらが目的地に近いか、移動距離を比較してどちらが便利なのかを判断して乗車していると考えられる。

観光目的で利用する人は、「きぶな」が走行するルートには宇都宮餃子の店舗周辺や市内中心部の観光地、商店街が入っているので、「きぶな」沿線マップを配布して宇都宮餃子・城址公園はもちろん、各商店街の店舗情報、餃子以外の飲食店、店舗ギャラリー等の情報も提供し、「きぶな」の乗車率を高める。

(5) 「きぶなワンデーパス」の発行

現在は現金・バスカード・定期券だけの支払いであるが市内循環線「きぶな」は、普通の路線バスに比べ特殊な路線を走行しているので、「きぶな限定」で1日乗車券を考える必要がある。また、乗車して頂いた方には、感謝の気持ちをこめて商店街との連携という形で割引券（クーポン）を配布するというのも有効であろう。

(6) 地元（商店街）のキャラクター活用

宇都宮にはご当地キャラクターがあるが、各商店街にも今後も愛される可愛いキャラクターを採用して商店街のブランド化を高めるのも一つの手段である。



(例)いづも商店街マスコットキャラクター

(7) かつての風格ある街並みパネル展示

宇都宮の中心市街地の持つ底力を再確認し、市民の街に対する誇りを掻き立てるために、かつてにぎわった風格ある街並みと現在の街の姿を対比して街角に表示することを考えたい。現在、通り沿いに『宇都宮の軌跡』という案内板があるが、日本語と英語表示だけで、しかも文字ばかりで分かりにくい。昔の風景の写真をその場所に掲示すれば、多くの人が一目で分かるようになる。



宇都宮の街 新旧対比

① 宇都宮駅前



Tsuyamaoki Utsunomiya 宇都宮駅前 (新名宮駅宇)

② 宮の橋・橋下



Miyamae Bridge (Utsunomiya) 橋ノ宮 (新名宮駅宇)

③ 宮の橋・西



THE WELL ARRANGED STREET OF UTSUNOMIYA, UTSUNOMIYA
宮の橋の西 (新名宮駅宇)



④ バンバ仲見世



Banba Nakamiya (新名宮駅宇)

⑤ 馬場町交差点付近



Banba Nakamiya (新名宮駅宇) かつて、三山神社の南には物見所や映画館が併発する、「パンス」と呼ばれた大衆娯楽があった。時代とともにその姿は影を失ったが、今でも多くの買い物客を集めている。写真は1969 (昭和44) 年当時のパンパ映画館 - 直藤商事提供 (本文184頁)

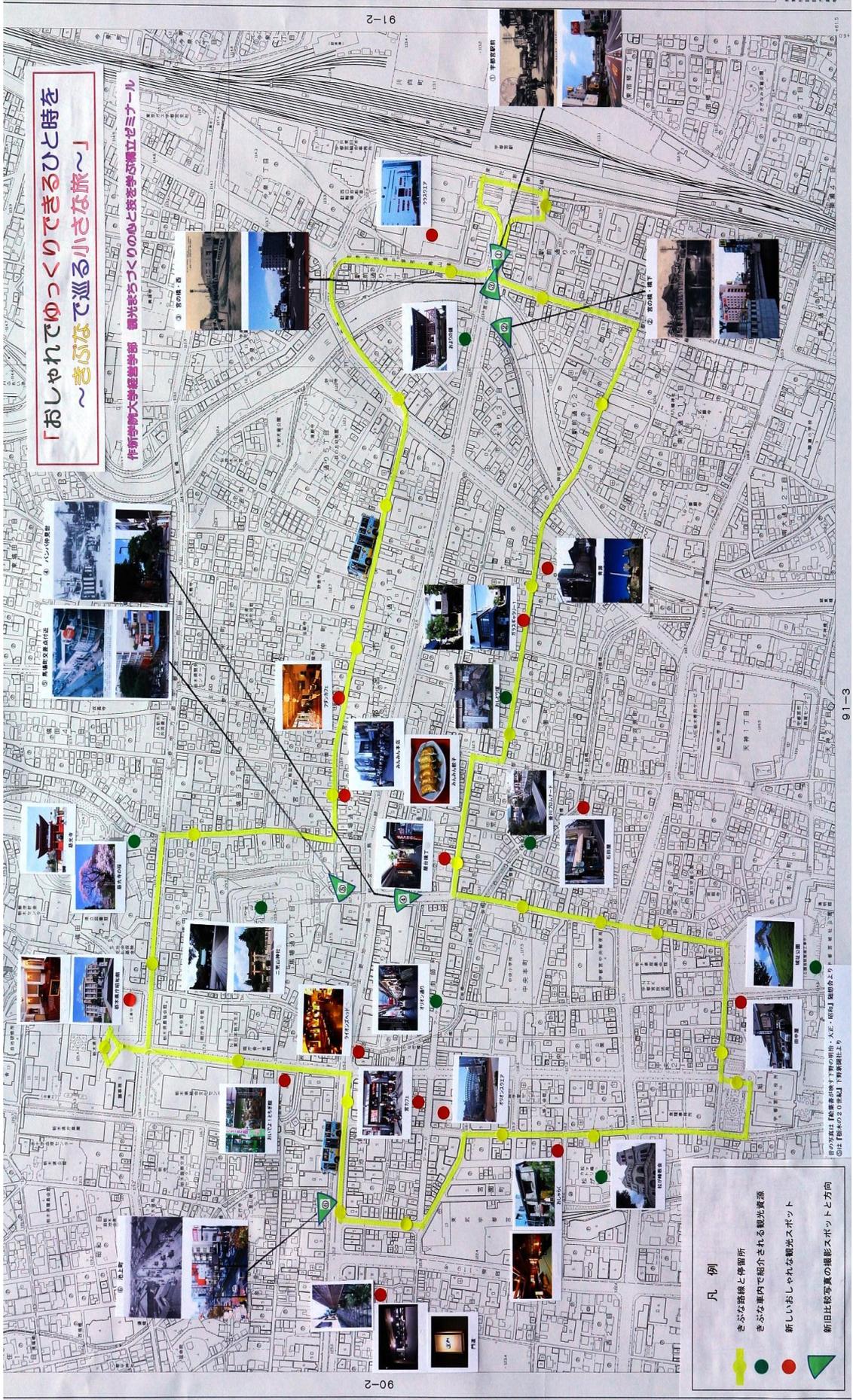
⑥ 池上町



昔の写真は『絵葉書が映す下野の明治・大正・昭和』随想舎 2009 より

⑤は『栃木の20世紀』下野新聞社 2000 より

新旧写真を比較して感じられるのは、蔵の街川越のような歴史的な風格は失われたが、現在の宇都宮の都市景観が、悲観するほど悪くないということである。とくに宮の橋やシンボルロード、大通りの電線地中化など、公共空間の整備が効いている。あとは民間の力で何とかしなければならない。都市の景観は市民力の頭れである。宇都宮の誇りを、市民の力で再構築していくことを考えよう。



「おしゃれでゆっくりできるひと時を
〜ぎぶなで巡る小さな旅〜」

作新学院大学経営学部 観光まちづくりの心と技を学ぶ確立ゼミナール

- 凡例
- きぶな路線と停留所
 - きぶな車内で紹介される観光資源
 - 新しいおしゃれな観光スポット
 - 新旧比較写真の撮影スポットと方向

※右の方眼は【松島湾に映る下町の街角・大正・昭和】撮影スポットより、左の方眼は【松島湾に映る下町の街角・大正・昭和】撮影スポットより